



立命化友会ニュース

近況報告

会長

白井 総

（昭和五十六年
化学科卒）



会員の皆様におかれましては、
益々ご清栄のこととお喜び申し
上げます。また、日ごろは立命
化友会の運営につきまして格別
のご支援・ご協力を賜り厚く御
礼申し上げます。

今回は私の勤務先を紹介いた
します。会社は創業から今年で
五十年を迎えますが、事業と

電子部品を搭載し、その導体間
を配線で接続する役割を果たし
ております。通常は様々な電子
機器内に組み込まれていますの
で皆様が普段あまり目にすること
は無いと思いますが、エアコン
、テレビ、照明器具、通信事
務機、自動車、太陽光発電、防
犯器具など様々な商品に組み込
まれています。

プリント配線板業界全体の
生産規模ですが国内は減少し
ながらも海外生産の伸びが大き
く年間では約六兆円で数年後に
は七兆円規模に拡大する見込み
です。弊社の顧客先は国内大手
メーカーを中心に六つの市場分
野（自動車・家電製品・業務用
電子機器・通信事務機・映像関
連・娯楽関連）に製品を提供し、
特定業種や分野に偏ることなく
安定した受注の確保を目指して
います。

一方、プリント配線板以外の
分野では、「検査機ソリューショ
ン事業」があります。これはこ
れまで人が行っていたプリント
配線板の外観検査を機械化する
ことで検査工程の進化を提案し
プリント配線板全体の品質向上
に貢献しております。

この事業では世界のプリント
配線板メーカー上位五十社の中、
約六割の企業が弊社の検査機を
導入しています。今後は人工知
能を組み込み、検査精度の向上
を目指します。また、基板関連

ピューティ制御されており、より
安全性能を高めるため今後もプリ
ント配線板の用途が拡大する
見込みです。

その他で今後伸びが期待され
る分野としては、LED照明で
世界的な広がりや、スマート
家電関連では洗濯機、冷蔵庫、
エアコン、炊飯器等がインターネット
につながる事での需要拡
大が見込まれます。またロボッ
ト産業分野では人件費抑制策と
して様々な産業分野でのロボッ
ト活用が見込まれ、自動車産業
に次ぐ基幹産業になると期待さ
れています。

会社の方針としてプリント配
線板事業では、付加価値の高い
製品群の販売比率の拡大、高品
質レベルに対応できる生産およ
び品質保証体制の強化、競争力
のある製造原価の追求、少量多
品種や試作短納期品の生産体制
の強化、独自性のある商品と技
術開発を進めています。

検査機ソリューション事業で

は検査装置の高速化やブランド
力の向上、プリント配線板メー
ターの生産性や品質向上につな
がるソリューションの提案の拡
充を図っています。以上簡単で
すが会社の事業内容を紹介させ
ていただきました。

最後になりましたが皆様方の
ご健康ご多幸をお祈り申しあげ
ます。

しては、プリント配線板事業と
検査機ソリューション事業の二
つがあり、事業拠点は日本と中
国で世界各地へ製品とサービス
を提供しております。主力商品
である「プリント配線板」は半
導体・抵抗・コンデンサなどの
スイッチ類など各装置がコン

の新商品として取り組んでおり
ます「高透明性フレキシブル基
板」は従来品ではできない発色、
アート演出で広告業界への採用
拡大を目指しております。

これからも同業他社と競争に
打ち勝ち取引先から求められる
高い品質レベルに対応できる企
業だけが生き残れる状況は続く
ものと思われます。

これまで人が行っていたプリント
配線板の外観検査を機械化する
ことで検査工程の進化を提案し
プリント配線板全体の品質向上
に貢献しております。

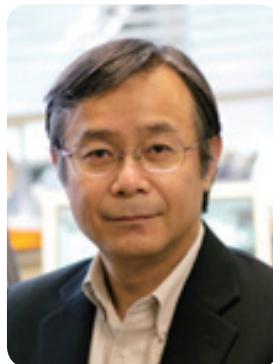
この事業では世界のプリント
配線板メーカー上位五十社の中、
約六割の企業が弊社の検査機を
導入しています。今後は人工知
能を組み込み、検査精度の向上
を目指します。また、基板関連

薬学部の近況報告

「全国トップクラスの

薬学部、安定飛行？」

薬学部長
今村 信孝



レビが取り上げ、創薬研究で富が得られるとの印象が、創薬を志す人が増えるのになるでしょう。学生にとつては、少しでもプラスになればと願つていま

す。今春の入試では、本学創薬学科は相変わらず苦戦した春となりました。

十六年春、薬学部で三回目となる卒業式は実に晴れやかで、楽しい卒業式となっていました。今春、卒業した薬学科三期生は薬剤師国家試験合格率が九十五%を超えて、ほぼ全員が合格しただけに笑顔が溢れる卒業式で、学生そして教職員一同ともに喜びを噛みしめました。国家試験問題の難易度自体は、難化傾向といわれた

昨年、一昨年と同程度のものでしたが、厳しい内容の試験ということで、周到に受験準備をした結果の好成績だと思います。全国的にも一気に合格率が上がりました。一方で、私立薬学部の合格率ラン

キング争いは、直接、受験生確保に繋がっていることから、熾烈を極め、特に新設の定員割れを起こしている大学では、なりふり構わぬ方法で合格率を良く見せているようです。卒業時の学生数が、最終学年に進級した時の半数にも満たない、即ち国試に受かる学生だけを卒業させるという方法は常套化しており、さらに卒業生の国家試験浪人にまで同様な働きかけを行つて受験させずに、ひたすら合格率アップを目指す大学が出てきています。立命館は、常識的な範囲で卒業の判断を行つて、これだけの結果を得ること

この状態が安定して続くかは、在校生の努力次第、在校生の鍛え方次第ということになるでしょう。学生にとつては、一度合格してしまえば、苦しくとも楽しげな学生時代の思い出にすぎませんが、送り出す大学教職員には、毎年々々果てしなく続くゴールの無い、しかし学部の存続をかけた歩みです。国家試験の内容は、以前と比較すると随分と難しくなっています。現六回生は、今春の先輩の好成績に感わされ、楽に合格できる試験と気を緩めたのか、初夏にあつた全国模試での結果は目を覆いたくなるものでした。薬学科の学生は夏に卒論も終わり、今年度後半は例年にも増して試験対策勉強に集中して貰いたいと思っています。学生達の追い込みに期待しつつ、激を飛ばさざるを得ない状況です。

薬剤師を取り巻く環境は、巷を賑わした「かかりつけ薬局」構想に表れているように変革を求められています。医療人としての社会的 requirements は高まる一方で、二〇一五年からの全国共通薬学教育コアカリキュラム改訂版でも、さらに教育内容が濃く、教育目標も高いものになっています。本学薬学科の教育は、医療人として求められている様々な技能、態度

薬科大学では、恒常的に定員割れに追い込まれ、その結果、定員を削減した大学が複数あります。さらに今回のコアカリキュラム改訂で、五年生時の実務実習では附属病院を持つ大学が圧倒的に有利になると、多くの薬系大学にとって厳しい状況にあります。薬剤師養成を掲げる薬学六年生課程に、少しづつ変化が忍び寄っているように思います。新設の本学薬学部は、国家試験では好成績を残しているものの、卒業生の数も少なく、まだ知名度は高いものではありません。国家試験合格率トップクラスを維持できるかの近道は、入学時にいかに優秀者層を取り込めるかにかかっていると考えており、苦戦する創薬科学科とともに高校生への広報活動を強化しています。皆様方におかれまして、是非、母校の薬学部の存在を、折りに触れて広めて頂けますようお願いいたします。

来春、卒業を迎える学生は、私が学部長就任の最初の仕事として、入学時の挨拶をした学生達です。学部長としての最後の仕事が、彼らへの送る言葉となりますが。是非、今春と同じように、笑顔が溢れる楽しい卒業式としたいと切に願つて止みません。さて、皆様方には、これまでご心配をおかけしたかと思いますが、薬学部も安定飛行まであと一歩という所まで來たと感じています。これからも、どうぞ薬学部へのご支援、ご指導ご鞭撻をお願いいたします。

二〇一五年度のノーベル賞・医学生理学賞には、日本人研究者が選ばれました。日本の薬学のレベルの高さを改めて感じられた方も多かつたかと思います。受賞者の大村先生は、一つの化合物で二億人を救つたと言われています。世界中の多くの人々を研究で救える創薬の魅力を示した素晴らしい例ではありますが、残念ながら、高校生にはなかなか理解できません。いよいよ、先生のお膝元の北里大学でも創薬系学科の受験生急増へとは繋がらなかつたようです。それでも、先生の美術品收集や故郷を作られた温泉施設をテ

レビが取り上げ、創薬研究で富が得られるとの印象が、創薬を志す人が増えるのになるでしょう。学生にとつては、少しでもプラスになればと願つていま

す。今春の入試では、本学創薬学科は相変わらず苦戦した春となりました。

十六年春、薬学部で三回目となる卒業式は実に晴れやかで、楽しい卒業式となっていました。今春、卒業した薬学科三期生は薬剤師国家試験合格率が九十五%を超えて、ほぼ全員が合格しただけに笑顔が溢れる卒業式で、学生そして教職員一同ともに喜びを噛みしめました。国家試験問題の難易度自体は、難化傾向といわれた

昨年、一昨年と同程度のものでしたが、厳しい内容の試験ということで、周到に受験準備をした結果の好成績だと思います。全国的にも一気に合格率が上がりました。一方で、私立薬学部の合格率ラン

キング争いは、直接、受験生確保に繋がっていることから、熾烈を極め、特に新設の定員割れを起こしている大学では、なりふり構わぬ方法で合格率を良く見せているようです。卒業時の学生数が、最終学年に進級した時の半数にも満たない、即ち国試に受かる学生だけを卒業させるという方法は常套化しており、さらに卒業生の国家試験浪人にまで同様な働きかけを行つて受験させずに、ひたすら合格率アップを目指す大学が出てきています。立命館は、常識的な範囲で卒業の判断を行つて、これだけの結果を得ること

二〇一五年度のノーベル賞・医学生理学賞には、日本人研究者が選ばれました。日本の薬学のレベルの高さを改めて感じた方も多かつたかと思います。受賞者の大村先生は、一つの化合物で二億人を救つたと言われています。世界中の多くの人々を研究で救える創薬の魅力を示した素晴らしい例ではありますが、残念ながら、高校生にはなかなか理解できません。いよいよ、先生のお膝元の北里大学でも創薬系学科の受験生急増へとは繋がらなかつたようです。それでも、先生の美

術品收集や故郷を作られた温泉施設をテ

レビが取り上げ、創薬研究で富が得られるとの印象が、創薬を志す人が増えるのになるでしょう。学生にとつては、少しでもプラスになればと願つていま

す。今春の入試では、本学創薬学科は相変わらず苦戦した春となりました。

十六年春、薬学部で三回目となる卒業式は実に晴れやかで、楽しい卒業式となっていました。今春、卒業した薬学科三期生は薬剤師国家試験合格率が九十五%を超えて、ほぼ全員が合格しただけに笑顔が溢れる卒業式で、学生そして教職員一同ともに喜びを噛みしめました。国家試験問題の難易度自体は、難化傾向といわれた

昨年、一昨年と同程度のものでしたが、厳しい内容の試験ということで、周到に受験準備をした結果の好成績だと思います。全国的にも一気に合格率が上がりました。一方で、私立薬学部の合格率ラン

キング争いは、直接、受験生確保に繋がっていることから、熾烈を極め、特に新設の定員割れを起こしている大学では、なりふり構わぬ方法で合格率を良く見せているようです。卒業時の学生数が、最終学年に進級した時の半数にも満たない、即ち国試に受かる学生だけを卒業させるという方法は常套化しており、さらに卒業生の国家試験浪人にまで同様な働きかけを行つて受験させずに、ひたすら合格率アップを目指す大学が出てきています。立命館は、常識的な範囲で卒業の判断を行つて、これだけの結果を得ること

生命科学部の近況報告

生命科学部長

小島 一男



生命科学部長・大学院生命科学研究科長の小島でございます。本学理工学部化学会の皆様には、当学部・研究科の教育研究にご支援・ご協力をいただき、感謝申しあげます。

二〇二〇年度までの立命館学園の構想であるR2020における本学の後半五年の基本課題十項目は、「学びの立命館モデル」の構築・教育と学びの質転換・大学院改革の推進、特色あふれるグローバル・シティの推進、です。要は、学部・大学院でグローバル化を推進しつつ、学部教育を一段と充実させ、大学院改革に

より研究大学を目指し、内外に選ばれる大学になることであると言えます。本学は文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」を推進中です。

二〇一六年度、薬学部から教授三名が生命科学部に移籍し、新たに准教授二名、任期制講師二名、助教四名を生命科学部に迎えました。当学部・研究科では二〇一七年度にカリキュラム改革を実施して教育内容を改善する予定です。施設面では、中心棟「バイオリンク」に隣接するリンクスクエア二階に学部事務室・会議室・演習室等が置かれ、事務室前のスペースは広くきれいでポスター発表等に利用されています。

二〇一七年度以降、生命科学部の入学定員は、応用化学科八〇→百十一、生物工学科八十→八十六、生命情報学科と生命医学科それぞれ六十一→六十四、と増加します。応用化学科については、学部将来構想における応用化学科生命系化学領域の充実をともなう純増といわゆる実員の定員化による増で、他三学科は後者のみによる増です。学部将来構想の議論は鋭意継続中です。このような学部改革により、生命科学部の入試および進路課題を改善していかねばなりません。なお、関連企画として、地元の三市の教育委員会・中学校と生命科学部とで「教育と生命科学シンポジウム」を本年九月に開催し、理科教育に関する情報交換、ネットワーク構築等を行いました。

本学大学院政策により、二〇一七年度以降、生命科学研究科では、博士課程前期課程授業料は現行より四十三万七千八百円減額の年額百十三万七千二百円となり、同時に年三十万円給付の成績優秀者奨学生を設けます。実はこの奨学金を受給しても現行のA給付奨学金受給者と比べると実質納付額（授業料+奨学金給付額）は一万二千二百円値上がりします。この値上がり部分はありますが、全体としてかなりの授業料減となり、当研究科前期課程（定員百五十名）の入学者増に繋げたいものです。なお同後期課程（定員十五名）については、現行授業料が低額で奨学金制度もあるため、同様に入学者が増えてほしいと考えています。大学院生が増えれば、研究力が向上します。この向上には国際共著論文数、高インパクトファクターのジャーナル論文数、科研費採択件数等の増加も求められます。生命科学部の「二〇一五年年報」に書きました。また同カレッジの教員三名と学生八名が生命科学部・研究科を訪れ、共同のワークショップとポスターセッションなどを行いました。また同カレッジの学生二名が本学部の研究室で一ヶ月間研究しています。

生命科学部提案の立同関連の「関西四私立生命科学シンポジウム」は4年間続き、本年六月に懇談会を本学部主催で行い、今後は実質的な交流促進を目的に、化学会も取り込んで生命・化学系の研究紹介や研究交流を中心に行っていくことになりました。

最後に、生命科学部は二〇一八年三月末日に設立十年を迎えるので、薬学部と合同で十周年記念行事を開催する予定です。今後とも生命科学部と生命科学研究科が各方面で選ばれて行くよう立命化友会の皆様のさらなるご援助をいただきたく何卒よろしくお願い申し上げます。

外国留学・外国出張で学んだ 異文化について

～フランスを中心にして～



中村 尚武

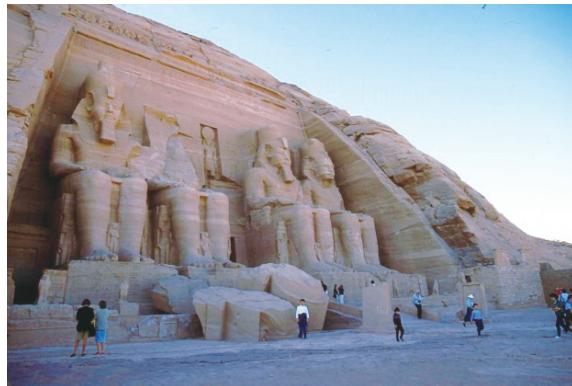
(昭和四十一年化学科卒)

皆さん、「注文の多い料理店」という

本を「存じだろうか?題名からするとい」の作品の内容は、お客さんからの注文が多く、店主がテンヤワンヤになるほどよく流行る料理店の話と思われそうだが、実際はそうではない。実は、お客さんにに対する店主の注文が多い、つまり、店主がお客に対してもこれ多くの注文をつける料理店の話である。

今回のセミナーも、店主即ち主催者からお客様即ち講師への注文が非常に多く、まるで「注文の多い料理店」状態であつた。当初から、「あれを喋れ」、「写真を見せよ」、「異文化に触れよ」、「研究成果を話せ」、「失敗談を紹介せよ」などと注文の山がきた。ついには、変な味付で

調理され、食べられそうになつた!これを避けるため、とにかく全部の注文に応えようとしたので、本番ではほとまりのない講演になってしまった。講演を終えた今、「いんなはずではなかつた」と少々後悔している。



アブシンベル神殿

さて、講演では、最初に、これまでに訪問した三十五ヶ国で撮った写真の一部を「存じだろうか?題名からするとい」の作品の内容は、お客さんからの注文が多く、店主がテンヤワンヤになるほどよく流行る料理店の話と思われそうだが、実際はそうではない。実は、お客さんにに対する店主の注文が多い、つまり、店主がお客に対してもこれ多くの注文をつける料理店の話である。

さらに、私が何回も外国留学や外国出張したので、「中村先生はどうも留学や出張を口実に世界中あちこち遊び歩いているらしい」という、根拠が乏しい噂を払拭するために、外国人との共著論文のいくつかを紹介した。

「異文化」というキーワードにかかわって、研究室で目にした日本文化の違いを述べた。例えば、研究室で出会えば皆さん握手して親しくあいさつを交わす。もし、相手の手が作業のために水でぬれたり汚れたりしている場合は、手首を握る。また、数字の表記が日本で異なり、「・」と「、」は逆である。たとえば、フランスでは円周率を3,14と表記し、千円をお見せした。パリなどで撮った定番の他、なるべく珍しい写真をといふ」と、インドのアジャンタ遺跡の壁画、エジプトのアブシンベル神殿、ポルトガルのロカ岬、ミラノ(伊)の「最後の晩餐」修復中の写真などを映写した。

次いで、留学先として、初めて長期滞在したグルノーブル原子力研究所、客員教授を務め、また、院生交換プログラムで何度も訪れたストラスブール大学などを紹介した。つづいて、訪問先で出会つた、当時ストラスブール滞在中の宇宙飛行士、向井千秋さんとのツーショット、グルノーブル原子力研究所受け入れのピネリー博士夫妻などを写真と共に紹介した。

さらに、私が何回も外国留学や外国出張したので、「中村先生はどうも留学や出張を口実に世界中あちこち遊び歩いているらしい」という、根拠が乏しい噂を払拭するために、外国人との共著論文のいくつかを紹介した。

ついで、昨年夏の、日仏クロード・モネゆかりの地を訪ねる北フランス・ノルマンディー旅行について話した。個人旅行をしたので、列車の乗り方などを紹介した。乗車予定の列車が入構するプラットホームは発車一一十五分前に決まる。その番号

を¥1,000と書く。さらに、建物には日本の一階に相当する階があるのでエレベータに乗る。-1, 0, 1, 2, といった具合に表示されるが、日本ではB1, 1, 2, である。数字の並びとして、どうか変?

また、失敗談もいくつか紹介した。そ

が掲示板に出るとみんな一斉にトランクを持って走り出す。整列乗車って、それ何?といったところだ。また、列車のドアは自分でボタンを押すことによって開閉させること、列車は何のアナウンスもなく発車することなどである。

旅行にまつわる失敗談も述べた。グルノーブル滞在中、南フランスの、スペインとの国境近くにある古都カルカッソンヌへドライブしたときのこと。目的地への高速道路の出口を間違え、スペイン国境へ来てしまつた。逆走できないので結局国境を越え、バルセロナで宿をとつた。

その地の動物園に当時「ホワイトゴリラ」の動物園に当時「ホワイトゴリラ」



ホワイトゴリラ

がいて「パンダより珍しい」と言われていた。その貴重な写真もお見せした。また、オーストラリア、ブルームの海岸で

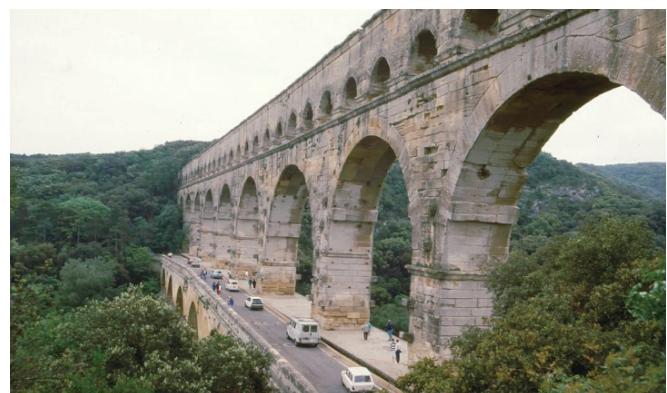
拾つた貝殻を家に持ち帰つたら、静止

もそれは「自己責任」である。(さすがに最近は禁止とのこと。)

最後に、今後の少子化に伴つて、我々の老後は外国人の世話になる可能性が高いと考えられる旨述べた。そのとき初めて異文化に接して慌てるのではなく、あらかじめ一定の理解をしておくことが望まれる。ボーダレス時代に備え、一言、「乾坤只一人」との言葉を紹介して本講演を締めくくつた。

坤只一人との言葉を紹介して本講演を締めくくつた。

僕は兵庫県立の工業試験所化学部や公害研究所に勤務していたため、神戸市須磨海岸に隣接する旅館で「カメノコ会」をお世話した時以来、十数年間も会わなかつた。大西氏は、卒業後に、兵庫県姫路市に立地するウシオ電機(株)の電気事業部に就職し、同社研究所の上席研究員としてキセノンランプなどの不活性ガスを封じた高輝度放電灯(希ガス蛍光灯等)の開発に心血を注ぎ十種類の特許を獲得した。キセノンやアルゴンの濃度測定にガスクロマトグラフを用いて手伝つたこともある、昨年、久し振りにコンタクトがあり、ウシオ電機OB会機関誌「しらさぎ通信第四十三号」(二〇一四・一・一)に彼の業績が紹介された記事を拝読すると同時に驚嘆させられた。彼が開発した世界最大のキセノンランプ(水冷式三十kW)が国内で使用され世界に輸出されている事、宇宙開発にも貢献しているとの事である、特筆すべきは、一九七〇年春から秋に開催された大阪万国博覧会(EXPO一九七〇)



ポンデュガール水道橋

大西安夫氏(昭和三十七年 化学科卒)のキセノンランプ 開発と余生

奥野 年秀

(昭和三十七年化学科卒)

大西安夫氏は岡山県の県立総社高校出身であり、山下大二郎教授の研究室にて電気化学を専攻した。学生時代は、空手道に熱を入れ二段を獲得すると共に、エレキギターを操るなど自由奔放な青春を過ごした、僕は金閣寺裏の下宿から、彼の住まいする妙心寺近辺の長屋に集まる学友達と囲碁やマージャンに青春を謳歌した。昭和三十七年二月には、京都市の

千本今出川通りの交差点に営業する、すき焼き屋で親しい学友と共に卒業コンパを行い、龜の甲羅に似たベンゼン核に因んで「カメノコ会」(大学OB会登録)を結成した、以後、不連続であるが、各人持ち回りで世話をする同窓会を開き現在も続いている。

僕は兵庫県立の工業試験所化学部や公害研究所に勤務していたため、神戸市須磨海岸に隣接する旅館で「カメノコ会」をお世話した時以来、十数年間も会わなかつた。大西氏は、卒業後に、兵庫県姫路市に立地するウシオ電機(株)の電気事業部に就職し、同社研究所の上席研究員としてキセノンランプなどの不活性ガスを封じた高輝度放電灯(希ガス蛍光灯等)の開発に心血を注ぎ十種類の特許を獲得した。キセノンやアルゴンの濃度測定にガスクロマトグラフを用いて手伝つたこともある、昨年、久し振りにコンタクトがあり、ウシオ電機OB会機関誌「しらさぎ通信第四十三号」(二〇一四・一・一)に彼の業績が紹介された記事を拝読すると同時に驚嘆させられた。彼が開発した世界最大のキセノンランプ(水冷式三十kW)が国内で使用され世界に輸出されている事、宇宙開発にも貢献しているとの事である、特筆すべきは、一九七〇年春から秋に開催された大阪万国博覧会(EXPO一九七〇)

の岡本太郎設計「太陽の塔」の頭部から、サーキュライトで夜空を照らしたキセノンランプは、彼が開発した成果でもある。近年では、二〇〇八年に開催された北京式や閉会式等に使用され大活躍をした。(図1、図2参照)

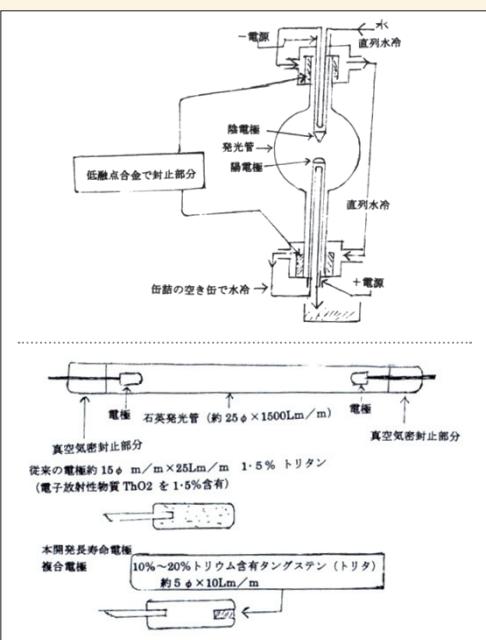


図1 上、水冷30kwキセノンランプの設計図
図2 下、20kwキセノンロングアームランプ設計図

方法を一つ見つけよう」と“新しい事に困難はつきもの、自分でやってみること、何度でも”と励ましている。これらの言葉は、第一次南極越冬隊長であった西堀栄三郎先生（京大名誉教授）の著書「百の論より一つの証拠」「石橋を叩けば渡れない」を彷彿させる、全ての研究者・技術者に通じる。

大西氏は、現役時代から多芸多趣味な人物であり、姫路市内のダンスホールなどでアルバイトにエレキギターやエレクトーン等を弾いていた。筆者の現役時代に自宅を訪れた時、多くの楽器を演奏して楽しませて歓待され、特許状も壁に掛けてあったのを思い出す。



エレキギターを演奏する大西氏

午後に、姫路市飾磨港に停泊するヤマハ発動機（株）のクルージングボートに乗せて、播磨灘を疾走した思い出は忘れられない。このボートは、当時、一千万円以上もする高価な船であり、海面を飛ぶ様に走るため運転席の隣で果然としていました。紀伊水道まで行くと言うので怖くて押しとどめた、副業や残業手当や特許料で稼いだ資金で購入したとは言え、その後輩たちに伝える言葉には、知識・知恵・技術・人間性のバランスを常に心がける事が開設して若手技術者の育成に取り組みを専門に伝える言葉には、知識・知恵・技術・人間性のバランスを常に心がける事ができる方法を百探しにより、できる

の豪快な生き様には圧倒された次第である。社内での催しでも、楽器を弾きスピーカーを持参してのパフォーマンスは社員に評判との話を聞いて驚くやら呆れるやら、この時は、学生時代に空手で鍛えた体力が資本であり、飽くなき好奇心と製品開発の研究への原動を感じて納得した次第です。

ために企画されたが、彼が久振りに参加して隠し芸を披露して欲しいと期待しています。ボランティア活動に忙しい老後は、彼の人生観の“成せばなる成さねばならぬ 何事も”を地で行く、古代からの吉備人の氣概と推察します。奈良時代には、吉備真備（学者）が遣唐使として多くの知識を伝え朝廷の政治に影響を与えた、江戸時代に岡山藩三代城主の池田光政が本邦最初の庶民学校である「閑谷学校」を設立した、陽明学の熊沢蕃山を師として武士のみならず町民や農民にも学問を教え普及に努めた、庶民を育む土地柄は古代の吉備国や美作国の伝統かも知れない、幕末の思想家で尊皇攘夷の志士に影響を与えた頼山陽（思想家）も訪れ、明治時代には、備前の正宗白鳥（小説家）や播州の三木露風（詩人）も学んでいます。

終わりに、現在、大西安夫氏は奥様と共に余生を楽しんで下さい。

その製造方法にも多くのアドバイスを実施して製造ラインに乗せてきた。退職後も会社からの要請で「大西ランプ教室」を開設して若手技術者の育成に取り組みを専門に伝える言葉には、知識・知恵・技術・人間性のバランスを常に心がける事が開設して若手技術者の育成に取り組みを専門に伝える言葉には、知識・知恵・技術・人間性のバランスを常に心がける事ができる方法を百探しにより、できる

方法を一つ見つけよう”と“新しい事に困難はつきもの、自分でやってみること、何度でも”と励ましている。これらの言葉は、第一次南極越冬隊長であった西堀栄三郎先生（京大名誉教授）の著書「百の論より一つの証拠」「石橋を叩けば渡れない」を彷彿させる、全ての研究者・技術者に通じる。

大西氏は、現役時代から多芸多趣味な人物であり、姫路市内のダンスホールなどでアルバイトにエレキギターやエレクトーン等を弾いていた。筆者の現役時代に自宅を訪れた時、多くの楽器を演奏して楽しませて歓待され、特許状も壁に掛けてあったのを思い出す。

午後に、姫路市飾磨港に停泊するヤマハ発動機（株）のクルージングボートに乗せて、播磨灘を疾走した思い出は忘れられない。このボートは、当時、一千万円以上もする高価な船であり、海面を飛ぶ様に走るため運転席の隣で果然としていました。紀伊水道まで行くと言うので怖くて押しとどめた、副業や残業手当や特許料で稼いだ資金で購入したとは言え、それが載った。東向きの庭壁に垂れ下がる強大なスイカ（重さ・十kg、直径・三十cm）が宙に浮く様に実り、近所の人を驚かせていると伝えている。今年から老齢化

したため休止するとの事であるが学生時代から学友達を驚かせて喜んでいたのを思うと、後期高齢者となつても奇想天外な事をする趣味と実践欲は変わらないと、愉快になり感動しています。

定年退職に

あたつて

里見 潤

(昭和六十三年着任)



ろんのこと、人間的な温かさと活気にあふれていました。そこでのすべての経験がその後の私を支え続けてくれたように思えます。

一九八八年に本学理工学部に着任した私は、保健体育教員として実技系授業や講義などを夜間も含め週八コマ担当し、もっぱら学生の心身の健康の保持・向上に教育的側面から力を注ぐことになりました。二十年間を理工学部保健体育教員として、そして八年間を生命科学部教員として仕事をさせていたいたることになります。生命科学部に移籍してからは、新設学部を軌道に乗せるために、少しでも役立てたらと考えて過ごしてきました。

実際に定年を迎えると、不思議なもので、三十年近い立命館大学での教員生活がつかの間の夢であつたかのようにすら感じられます。少し目を覚まし、頭に浮かんでくることをわずかばかり書き綴つてみることにします。

本学にお世話になる前に西ドイツ政府奨学生として五年余りを過ごしたケルンにあるドイツスポーツ大学の循環器・スポーツ医学研究所は、私の教育・研究に携わる者としての基礎を育んでくれたおかげがえのない場所でした。そこには世界中から多くの若手研究者が集まつてきており、研究に対する非常な厳しさはもち

一九八八年に本学理工学部に着任した私は、保健体育教員として実技系授業や講義などを夜間も含め週八コマ担当し、もっぱら学生の心身の健康の保持・向上に教育的側面から力を注ぐことになりました。二十年間を理工学部保健体育教員として、そして八年間を生命科学部教員として仕事をさせていたいたることになります。生命科学部に移籍してからは、新設学部を軌道に乗せるために、少しでも役立てたらと考えて過ごしてきました。

定年を二年後に控えた時点での思いがけない学部長就任には本当に戸惑いましたが、これは野球で言うところのワンポイントトリーフの役割が求められているのであろうと勝手に解釈し、この局面で絶対に解決しなければならないと考えられるいくつかの重要課題に集中して取り組むことにしました。また、学部の将来的な大きな発展のために、今は学部としてじっくりエネルギーを蓄えることが重要な時期であろうと考え、先生方ができるだけ落ち着いて教育と研究に精力的に取り組めるように、学部に安定することを心掛けて運営にあたりました。学部長としては至らぬことが多々ありました。事務長をはじめ、学部のすべての教職員に、執行部に加わっていただいた先生方や

支えられ、何とか現学部長の小島先生にバトンを渡すことができました。支えていただいたすべての方々に心から感謝しています。そして、今後の生命科学部および薬学部の素晴らしい発展を楽しみにしています。

今思うことは、学生に励まされながらの楽しい教員生活だったということであり、そう思えることをありがたく思っています。

里見潤先生の

ご定年退職にあたつて

生命医科学科教授

堀 利行

里見潤先生は、一九七四年に東京教育大学体育学部を卒業後、順天堂大学大学院を経て、西ドイツのケルンスボーツ大学大学院へ留学されました。スポーツ科学の博士の学位を取得されて、帰国後一九八八年に本学理工学部に助教授として着任され、その後同学部教授、生命科学部教授を歴任されました。先生のご専門は、スポーツ教育とアスリートの運動生理学的研究であり、スポーツ科学に基づくトレーニング支援を通じて、本学のスポーツ振興、体育教育の質改善のみならず、我が国におけるボート競技などのトップアスリートの競技力向上にも貢献されました。

先生は、「ご退職の直前に一次的に体調を崩されていましたが、最近は、お元気になられたと伺っています。学部長・研究科長の激務の疲れを癒やされた後、現在は、特任教授として生命科学部の教育に貢献していただいています。今後益々お元気で、生命科学部の発展を見守っていただきますようお願い申し上げます。

里見先生と私とのお付き合いは、

二〇〇八年に生命科学部・薬学部が開設され、その中に生命医科学科が発足したときからです。当時、他大学から赴任してきた本学のことを何も知らない私たち新任教員にとって、本学のご経験の長い先生には本当に大きな支えになっていたときました。新学科の草創期は、何かと問題の多い不安定な時期ですが、それを辛うじて乗り越えることができたのは、先生のご仁徳によるところが大きかったと思います。温厚な先生と話をすると、誰もが安心感を与えられ勇気づけられるのでした。

先生は、生命学部の運営にも大きな足跡を残されました。二〇〇八年から二年間、生命科学部・薬学部の学生担当の副学部長をされたのに続いて、二〇一四年から約2年間、生命科学部長・研究科長の重責を担われました。副学部長であった私から見て、先生の運営方針は、和を大切にされる先生らしく極めて民主的で、あつたと思います。山積する難しい問題に対しても、先生は、不動の信念と寛容さをもって、一つ一つ丁寧に議論を尽くしながら解決していかれました。

先生は、「ご退職の直前に一次的に体調を崩されていましたが、最近は、お元気になられたと伺っています。学部長・研究科長の激務の疲れを癒やされた後、現在は、特任教授として生命科学部の教育に貢献していただいています。今後益々お元気で、生命科学部の発展を見守っていただきますようお願い申し上げます。

定年退職にあたつて

澤村 精治
(昭和四十九年
化学科卒)



これまでに何度も定年退職される先生を送る言葉をこの立命化友会ニュースで書かせていただきましたが、いつの間にか書かれる立場になってしまい面はゆい感じです。立命館大学に助手として着任したのは一九八三年十月ですが、立命館との関わりは、その前の大学院や学部から数えると、確かに大学に入つてすぐに大阪万博が開催されたかと思います。

平成時代の同窓生が増えてきたので、当時の状況を少し紹介すると、一年生は化学科約百三十名で内女子三名(理工学部全体で五名!)と、今では考えられないアンバランス(現在は生命科学部でも約四十%!)。当然教授陣は三名ぐらいいすぐ名前を覚えるので、この三名は授業を欠席できないとばやくことばやくこと。ちなみに男子の出席率はせいぜい二十九%

だつたでしょうか。ほぼ百%の現代からは想像もつかないでしょう。授業に出すどこへ?当時も大学の周辺にゲームセンター?(雀荘)がありました。違うのは四名そろわないとゲームが出来ないこと。それでメンツが足りないとよく教室から呼びだされましたよね。というような大学生活でも何とか四年(?)で卒業していました。現代からみれば、どんな大学だったのでしょうね。今もって不思議です。現役の一・二年生にこの記事は読ませないでください。

研究室での研究活動は、まだ「安全管理」や「製造物責任」という概念がなく公害まき散らしの時代(の終わり頃?)だったので、比較的自由にやりたい放題でした。今のように試薬瓶に整理番号を貼る

でもなく、すべて自己責任で、消防を呼ばない程度の火災で天井が消化器の泡だらけになつたり、種火が消えた給湯器のガス爆発で耳が一瞬聞こえなくなつたり、徹夜明けで眼いま電気乾燥器を修理しようとして感電して目が覚めたり、命に

関わらない程度に存分に楽しませてもらいました。おかげで指導する立場になつてからは、安全に関して人一倍気を遣うようになりましたが、そういえばびわこ・難訓練で非常はしごの説明会があつたのですが、参加したのは化学科と生物工学科の教員のみ。他の理工系学科からの参加はゼロでした。化学系学科の教員には、

衣笠時代のことがよほど身にしみたのでしよう。

なお、このニュースにある訃報の鈴木啓三先生は小生の指導担当教授でした。定年したらご挨拶に伺おうとしていたのですが、残念です。

小生は四月からも特任教員ということで毎日元気に大学に通っています。大学に来られた際はお立ち寄りください。ありがとうございました。

を維持して行くには、油まみれになつて金属部品を我が子のように面倒を見る必要があります。大変な忍耐を強いられます。先生は三十五年間それを続け、非常に貴重な高压物性データを残されました。

研究の世界においても国際競争は激しく、発表論文数は増加する一方ですが、先生の基礎物性データは、無数の論文に埋もれることなく、益々輝きを増していくのではないかと確信しています。

教育面では、物理化学系講義・実験科目を担当していました。先生のご

ご定年退職にあたつて

応用化学科教授

加藤 稔

澤村精治先生は、立命館大学の化学科で学ばれ、理工学部での助手、助教授、教授、生命科学部の教授を経て、二〇一六年三月に定年退職を迎られました。学内では理工学部学生主事、理工学研究科主事、評議員等の役職を務められました。

先生の専門分野は物理化学で、研究課題は「溶液の高压物性」でした。特に、高压力下の溶解度、高压力下の液体の粘性測定に精力的に取り組みました。先生が対象とする溶液系での高压力実験は容易ではなく、この分野の進展の大きさになりました。おかげで指導する立場になつてからは、安全に関して人一倍気を遣うようになりましたが、そういえばびわこ・難訓練で非常はしごの説明会があつたのですが、参加したのは化学科と生物工学科の教員のみ。他の理工系学科からの参加はゼロでした。化学系学科の教員には、

澤村先生は、四月から特任教員として、教育および研究を継続されています。教育では、引き続き生命科学部の物理化学系講義および実験科目を担当されておられます。研究にも、意欲的に取り組まれています。立命館に長きに渡り貢献された先生からは、まだまだ学ぶことがあります。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

定年退職に

あたつて

土屋
友房

(平成二十三年着任)



副学部長を仰せつかり、薬学部教職員の皆さまと協力し、立命館大学薬学部の運営に尽うる所存であることを御報告する。

薬学科の学生が将来立派な薬剤師になれるよう、このことを念願しつつ教育に努めました。

私が在職した最後の三年間に三回の薬剤師国家試験がありましたが、年々合格率が上がり、立命館大学薬学部は私立大学薬学部のトップグループに名を連ねることができました。今後立命館がトップグループに入り続けることを

さて、立命館は仏学の雑誌の一つです

私は岡山大学を定年退職後、五年間の約束で立命館大学薬学部教員として教育研究に携わらせていただき、本年三月末に退職しました。私にとつて立命館での五年間はとても充実したものでした。立命館に心から感謝しています。

私が立命館大学に着任した（一九五〇年）は、立命館大学薬学部薬学科（六年制）ができて四年目でした。教職員の皆様のご努力により、教育・研究・運営体制が整いつつありました。私立大学薬学部薬学科の最大の使命は、将来社会で活躍し貢献する立派な薬剤師を養成することです。また、学生達は、薬剤師国家試験に合格することを第一の目的として入学してきます。私は今

土屋友房先生

青戸和弘

(平成二十七年 薬学部卒)

土屋友房先生は、二〇一六年三月をもって、定年によりご退職されました。私は大学四年次後期からの約二年間、土屋先生が教授を務められた感染制御を担当させて貰いました。先生の温かく、丁寧な指導と激励で、私は多くのことを学びました。

学研究室に所属し、先生の温かいご指導を賜りました。先生の研究室に入ること

ことを決意したきっかけは、当時、私

が研究室選びに迷っていたときに「社会で活躍できる力をこの研究室では身につけてほしい」という、学生の将来を見据えた温かい言葉に惹かれたためです。

研究室生活では、日々の研究や毎週

行われるセミナーの準備などに追われ、決して楽なことばかりではありませんでした。しかし研究成果が出れば、積極的に学会発表をさせていただくなべてくださいました。また学会では、先生の前任である岡山大学の教え子が教員となり、実際に活躍されている姿を度々

拝見しました。その先生方が土屋先生を慕う姿を見て、私は先生の人望の大きさ、そして偉大な先生のもとで学生生活

活を過ごしているというありがたみを実感しました。



鈴木啓三先生を偲んで

谷口 吉弘

(昭和四十年 化学科卒)



物理的時間では測れない厳しく重いものを先生は感じられていたようで、お会いするたびに学園紛争当時のことをお話しされました。その後、理工学部長・理工学研究科長をお務めいただき、定年後も、非常勤講師として、十年間にわたり立命館大学文・社系学部の学生に一般教養「化学」の授業を担当の傍ら、短歌を勉強され、定年退職後の歌を収めた短歌集「曼珠沙華」を出版されています。

私が立命館大学理工学部化学科に入學した当時、衣笠学舎は理工学部のみの松林に囲まれた静か雰囲気で、勉強するには実にいい環境でした。当時、入学と同時に各クラスを担当する指導教員制度があり、私どものクラスの指導教員は杉田先生で、コンパやハイキングに先生をたびたびお誘いし、学部生時代を楽しく過ごした思い出があります。

卒業研究では鈴木先生がプリンストン大学留学中でもあり、鈴木研究室には個性豊かな五人が配属され、留守を預かる三代沢先生が研究指導されることになりました。それぞれが独自の研究テーマで卒研を楽しんでいたようです。競馬好きの卒研究生がいて、当時、「しんざん」が三冠馬になるのではとの前評判があり、馬券の買い方など事前学習後、菊花賞観戦に淀競馬場へ初めて出かけました。幸い、「しんざん」が三冠馬となり、帰り路、馬券の当たり賞金で木屋町の中華料理屋でコンパをした思い出があります。その後、鈴木先生の指導の下で、大学院修士・博士課程へと進み、立命館大学課程博士第一号をいただきました。また、土屋助手（鈴木研三代目助手・北村、三代沢）の後任として理工学部化学科助手として採用いただき、

部長代理として紛争の真っ只中に明け暮れ、鎖され、学園紛争が熾烈を極めた頃、理工学部長代理として紛争の真っ只中に明け暮れ、

鈴木先生の定年まで、同じ職場で教育・研究・管理運営上で指導を受けることができました。この間、理工学部の京都市衣笠から滋賀県草津への移転と理工学部拡充計画での生

物工学科および生命科学部・薬学部の設置に関わり、理工学部長・生命科学部長として立命館大学理工学部および化学科の発展に関われたことは望外の幸せでした。二度の立命館大学での退職後、現在、平安女学院大学副学長、中学校・高等学校校長として、日々忙しい毎日を過ごしています。

父母を往きませし道、淨土への、その白道に咲きいし 曼珠沙華

(鈴木啓三著「曼珠沙華」より) 合掌

中々体験出来ない「釣り」が出来る貴重な会です。と言うのも、私は小学生の時の川釣りで糸が絡まり続けたトラウマから釣りに興味がなく、息子を連れて行くことが出来なかつたのです。この釣り天狗クラブに参加させていただくようになって、私が教えられなくても、周りの方々が親切に一から十まで教えてくださり、親子だけでは体験できないような場所で釣りが出来ます。

昨年は、海の釣り堀で、息子は、めでたく念願の鯛やカモンパチのような大物を釣り上げることができてとても良い思い出となりました。

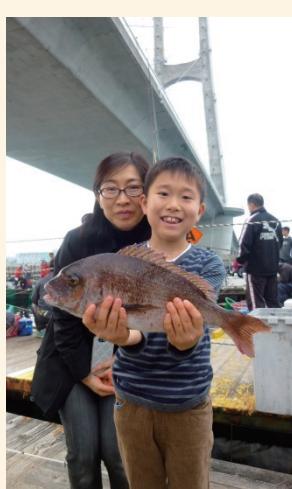
り

会員だより

鯛と息子と

湯浅 知子

(平成二年 化学科卒)



昨日の秋、第六回釣り天狗クラブに参加しました。これで三回目の参加です。

また、釣りの後のBBQもとても楽しみです。懐かしい顔ぶれや、大先輩方と釣った魚をその場で食べたり、お酒を飲んだり。色々な話も出来て大満足の一日本が過ごせます。毎日の仕事のストレスをリフレッシュ出来る貴重な時間が持ててありがたく思っています。

お世話係の田中君をはじめ事務局の方々には、大変ご迷惑をお掛けしていると思います。(前回は、家族での参加でした。)いつも息子と二人で参加させていただいている。

いつも息子と二人で参加させていただいている。(前回は、家族での参加でした。)私は息子にとって「釣り天狗クラブ」は、年に一度の楽しみなイベントです。

私にとっては、立木教授が退官されてから中々お会いできる機会が無くなつた立木研の懐かしい集まりの一つ。息子にとっても、

今年も十月の会に参加できることを楽し

「私のしごと館」

始末記

木村 嘉勝



(昭和四十三年化学科卒)

余曲折の事務折衝の末に閣議報告として「民間に運営を二年間委託し、第三者評価で廃止を含めて検討する」ことで決着した。民間委託の入札が行われ、某企業が落札して平成二十年八月末日に引き渡すこととなつた。その間、現地採用の職員、企業の出向者、派遣労働者、職人など総数約五百人の辞職、各種の契約解除、業務の引継など対応を誤れば深刻な事態となる可能性もあった。八月末日に引継式を行つて私から某企業の社長に「この館の鍵」を渡した。その数日後に「私のしごと館」の廃止の政府方針が示され、某企業も行革の大波に飲み込まれた。私は、職を失つた多くの職員に配慮して任期途中であつたが、その引渡の日をもつて辞職し、現在、郷里（滋賀県）で小さな会社を創立して、平和に生活している。この館は、その後まもなく誰からも知られることがなく静かに幕を引き、現在は京都府が国から無償で譲り受けて活用しているようだ。

今思えば、この館の始末のため、実務のトップの副館長に「しがらみのない素人」を任命した当時の厚生労働省幹部の慧眼は流石である。（温泉研究会副会長）

平成十三年に広島労働局長を最後に労働省を退職し、中央労働災害防止協会に再就職（常務理事）していたが、厚生労働省から雇用能力開発機構の「私のしごと館」の副館長（館長は名誉職）を依頼された。この方面の仕事は全くの素人であつたが、引き受けた。早速、京都府精華町の「私のしごと館」を訪れ、巨大な建物に驚きつつ、入場券を買って視察した。この館では、一流の職人が中学生や高校生に将来の職業を考えさせる重要なものと思った。平成十八年四月に副館長として着任したところ、テレビ、新聞が激しく「行政の無駄遣いの象徴（総工費五百六十億円、毎年十四億円赤字）」として取り上げた。この館の存続のため、京都府や地元の支援、政界、産業界、労働界、マスコミ関係者などに理解を求める民間委託で生き残りをかけた。当時の厚生労働大臣はこの館の視察後に「廃止するのもつたない」とマスコミに発言し、糸



企画運営委員会報告

委員長 伴野 清
(昭和四十二年 化学科卒)

会員相互の交流と親睦を図る目的で各種企画を運営しておりますので、ご案内並びに運営状況について、報告させていただきます。

今年度も幹事の方々にお世話いただき、以下にご紹介する各活動が繰り広げられ、恩師の先生方、先輩方、同胞、ご家族、友人との交流を楽しむ絶好の機会になりました。

また、特別企画セミナーでは、本学名譽教授の中村尚武先生を講師にお招きして、「外国留学・外国出張で学んだ異文化について」と題してご講演を賜りました（詳細は四〇五ページ）。

今後とも皆様方のご協力をいただきながら、より一層充実した企画運営を続けてまいります。

それぞれの開催案内は、引き続き、事務局からお送りしておりますので、参加ご希望の方は、お気軽にご一報下さい。ご家族同伴も大歓迎です。

「企画運営委員会の開催」

①平成二十八年二月二十八日(日)

茨木キャンパスにおいて、これまでの総括と今後の活動について打ち合わせを行いました。

朱雀キャンパスにおいて、本年度実施予定の企画運営テーマについて、意見交流を行いました。

第五回 溫泉研究会総会

平成二十七年十月十七日(土)十八日

奥野年秀氏のお世話により山中グラン ドホテル（山中温泉）で開催されました。塙原俊文氏（昭和五十五年卒、北陸先端技術大学院大学・教授）による「加賀温泉郷」郷土史の講義を願った、流石に地元の地理・文化に明るく楽しく拝聴しました。

第三十一回 ハイキング

平成二十七年十月二十五日(日)

木全豊和氏にリーダー役をお願いし、「大文字山登山コース」で秋晴れに映えた京都市内の絶好の眺めを楽しみました。今回参加された初めてのメンバーも多く、総勢十四名、登山後は、打ち上げ親睦会を行い、大いに盛り上りました。



第三十五回 ゴルフ・懇親会

平成二十七年十月二十八日（水）

三上正勝氏・西村定氏にお世話いただきました。

き、好天に恵まれた秋空のもと、オレンジシガカントリークラブで開催され、十四名が豪華な賞品を目指して精一杯プレーされました。栄冠は野田博之氏の手に・・・おめでとうございます。



第六回 釣り天狗クラブ

平成二十七年十一月二十二日（日）

目片秀明氏のお世話により、「田尻海洋交流センター・海上釣堀」にて、魚釣りとバーべキューの楽しいひと時を過ごしました。参加者はご家族、お子達を含めて十四名、釣る人、飲む人、食べる人、まことにぎやかな一日となりました。釣りの経験なくても、準備はまったく不

要です。釣りとバーべキューを楽しむ日に、皆様・ご家族様、気軽にご参加ください。



第三十六回 ゴルフ・懇親会

平成二十八年三月二十三日（水）



第八回 温泉研究会総会・幹事会

平成二十八年四月二十三日～二十四日

奥野年秀氏のお世話により、宇多野ユースホステルで開催されました。幹

事会では、一泊と言うこともあります。河村喜雄様が優勝されました。
おめでとうございます。



事会では本年度開催予定の総会計画、ニュース発行等の議題が討論されました。続いて、木村嘉勝様（元労働省広島

幹事の三上正勝氏・西村定氏にお世話いただき、京都・宇治カントリークラブにおいて開催されました。当日は、風もなく穏やかに晴れでまさにゴルフ日和となりました。総勢十三名はまさに真剣勝負・・??と言いたいところですが、和氣あいあい親交を暖めることができました。競技方法は新ペリア方式で行い、河村喜雄様が優勝されました。

懇親会では、一泊と言うこともあります。河村喜雄様ゆっくりくつろいでいただきました。

第三十一回 ハイキング

平成二十八年四月二十二日（金）

北尾舒彦氏・高岡滋雄氏にお世話いただき、参加者十六名と多くの皆様が、懐かしい衣笠学舎周辺から仁和寺～宇多野～広沢の池コースを散策しました。衣笠学舎での学食＆キャンパス見学は、当時の思い出がよみがえる記念すべき日になりました。皆様ご満足の様子でした。よかったです！



新任の先生から一言

梶本 哲也 先生



本年四月より薬学部教授として着任いたしました。専門分野は有機化学で、生物活性を有する糖鎖関連化合物の合成をメインテーマに研究を行っています。今まで、大学や研究所を渡り歩いてきましたが、これからは落ち着いて教育、研究に努め、立命館大学の発展に貢献できますよう、微力ながら精進致す所存です。ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。

略歴

- 一九八二年 徳島大学薬学部卒業。
- 一九八四年 京都大学大学院薬学研究科修士課程修了（一九八九年）
薬学博士取得。
- 一九九〇年 スクリップス医学研究所
(米国) 博士研究員。
- 一九九二年 理化研究所 国際フロンティア フロントニア研究員。
- 二〇〇四年 京都薬科大学助教授。
- 二〇〇七年 同、准教授。
- 二〇一六年 本学薬学部教授。

折笠 有基 先生



本年四月より生命科学部准教授として着任いたしました。専門分野は電気化学で、リチウムイオン二次電池、燃料電池を扱っています。特に固体内のイオン移動に焦点を当て、未来のエネルギーデバイス研究を通じて、本学の教育・研究活動を大きく発展できるようつとめていく所存でございます。立命化友会の皆様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

略歴

- 二〇一〇年 京都大学大学院人間・環境学研究科 相関環境学専攻博士後期課程修了。
- 二〇一〇年 京都大学産官学連携本事務特定助教。
- 二〇一一年 京都大学大学院人間・環境学研究科 助教。
- 二〇一六年 本学生命科学部応用化学科准教授。

向 英里 先生



本年四月より生命科学部准教授として着任いたしました。専門分野は生理学、代謝学で、生活習慣病の主に糖尿病を研究しております、糖尿病の発症の成り立ちや有効な治療法ならびに予防について、幅広い視点を当て、未来のエネルギーデバイス研究を通じて、本学の教育・研究活動を大きく発展できるようつとめていく所存でございます。立命化友会の皆様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

略歴

- 二〇〇一年 京都大学大学院医学研究科博士課程修了。博士（医学）。
- 二〇〇一年 日本学術振興会特別研究員。
- 二〇〇三年 京都大学大学院医学研究科研究員。
- 二〇〇五年 独立行政法人医薬基盤研究所研究員。
- 二〇〇七年 京都大学大学院医学研究科研究員。
- 二〇一二年 千葉大学大学院医学研究科講師。
- 二〇一六年 本学生命科学部生命医学科准教授。

山下 翔平 先生



本年四月より生命科学部応用化学科助教として着任いたしました。専門分野は触媒・放射光化学で、主にニッケル触媒について放射光を利用した原子レベルでの反応解析から、触媒反応メカニズムを解明し、新規触媒の設計・創成を目指しています。本学での教育・研究の発展に貢献できるよう日々努力していきます。皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

くお願い申し上げます。

略歴

- 二〇一六年三月 立命館大学生命科学研究科博士課程後期課程修了。
- 博士（理学）。
- 二〇一六年四月 本学生命科学部応用化学科助教。
- 二〇一二年 千葉大学大学院医学研究科研究員。

略歴

- 一九八二年 徳島大学薬学部卒業。
- 一九八四年 京都大学大学院薬学研究科修士課程修了（一九八九年）
薬学博士取得。
- 一九九〇年 スクリップス医学研究所
(米国) 博士研究員。
- 一九九二年 理化研究所 国際フロンティア フロントニア研究員。
- 二〇〇四年 京都薬科大学助教授。
- 二〇〇七年 同、准教授。
- 二〇一六年 本学薬学部教授。

新任の先生から一言

■吉澤 拓也 先生



本年度より、生命科学部生物工学科助教として着任いたしました。専門分野は構造生物学です。X線結晶構造解析法を軸として、タンパク質の機能を原子レベルで明らかにしたいと考えております。初めての教育現場で慣れないことも多いですが、教育・研究共に精進して行きたいと思います。立命化友会の皆さん、どうぞよろしくお願い申上げます。

■笠原 浩太 先生



本年四月より生命科学部助教として着任いたしました。専門分野は計算生物学で、情報科学的なアプローチと計算物理学的なアプローチを融合的に活用した生体分子間相互作用の原理解明を目指しています。これまで研究に専念してきましたが、本学では教育についても勉強させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

■村澤 秀樹 先生



生命科学部助教として本年四月に着任いたしました。社会医学、特に保健医療政策の評価を中心とした研究を行っています。昨年夏までの十年余、厚生労働省に事務官として勤務していたため、教育・研究についてはまだ駆け出しの身です。これまでの経験を活かした独自の視点で、本学に貢献できるよう努力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

■片山 将一 先生



本年度四月より薬学部助教として着任致しました。専門分野は生化学、分子生物学であり、遺伝性疾患に関与するプロテインキナーゼの研究を行っています。本学の教育・研究において少しでも貢献できるよう精一杯取り組む所存です。どうか皆様のご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

略歴

二〇〇七年	信州大学理学部卒業。
二〇一二年	横浜市立大学大学院博士後期課程修了。博士（理学）。
二〇一二年	テキサス大学サウスウェスタン医学センター博士研究員。
二〇一六年	本学生命科学部生物工学科助教。

略歴

二〇一〇年	東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程後期課程修了。博士（科学）。
二〇一〇年	東北大学大学院情報科学研究科特任研究員。
二〇一三年	大阪大学蛋白質研究所特任研究員。
二〇一六年	本学生命科学部生物工学科助教。

略歴

二〇一〇年	香川大学農学部応用生物学科卒業。
二〇一二年	香川大学大学院農学研究科修士課程修了。
二〇一五年	愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了、博士（農学）。
二〇一五年	日本学術振興会特別研究員（PD）。
二〇一六年	本学薬学部助教。

新任の先生から一言

北澤 創一郎 先生



肱岡 雅宣 先生



正木 聰 先生



森本 功治 先生



本年四月より薬学部助教として着任いたしました。専門分野は、構造生物学で、タンパク質を対象に、主にNMRを用いた「立体構造決定」、「構造の揺らぎ」、「安定性」について研究をしております。本学の教育、研究活動の発展に貢献できるように、一生懸命取り組んでまいりたいと思います。皆様の御指導御鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。

本年四月より薬学部助教として着任いたしました。専門分野は神経科学・薬理学で、これまでに神経変性疾患モデル動物を用いた病態解析および治療薬の探索を行ってきました。本学着任後も神経変性疾患に焦点を当てた研究を継続しています。本学の研究・教育に貢献できるよう努めますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

本年四月より薬学部助教として着任いたしました。専門は分子生物学で、疾患に関連するシグナル伝達の制御やスプライシングアイソフォームの生理的意義について研究を行っています。薬学部の教育・研究の発展に貢献できるよう、鋭意に取り組んでまいりますので、よろしくお願い致します。

本年4月より、薬学部の助教として着任致しました森本功治です。専門分野は有機化学で、新規有用反応の開発と薬物活性化合物の合成研究を行っています。本学では薬学部の発展教育、研究を通じて、微力ではありますが本学の更なる発展に貢献したいと考えております。皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

略歴

二〇一四年九月 立命館大学理工学
研究科博士課程修了 博士（理学）。

二〇一五年二月 レンセラー工科大
学 CBIS 博士研究員。

二〇一六年四月 本学薬学部助教。

略歴

二〇一六年三月 熊本大学大学院薬
学教育部博士後期課程修了。博
士（薬科学）。

二〇一六年四月 本学薬学部助教。

略歴

二〇一二年 京都大学大学院 医学
研究科医学専攻 博士課程修了
博士（医学）。

二〇一二年 京都大学大学院 医学
研究科メディカルイノベーション
センター特定研究員。

二〇一六年 本学薬学部助教。

略歴

二〇〇九年三月 大阪大学大学院薬学
研究科博士後期課程修了 博士
（薬学）。

二〇〇九年四月 立命館大学立命館グ
ローバル・イノベーション研究
機構（R-GIRO）博士研究員。

二〇一三年四月 立命館大学 立命館
グローバル・イノベーション研
究機構助教。

二〇一四年四月 立命館大学総合科学
技術研究機構助教。

二〇一六年四月 本学薬学部助教。

昭和四十二年卒 有志同窓会



去る十月十二日（水）～十三日（木）にエクシブ京都八瀬離宮（京都市左京区）にて開催致しました。十六名の参加でした。卒業して五十年、中には姿、形、風貌が変わり、町ですれ違つても分からぬ方達もおられました。

美味しい料理とお酒との親睦会が始まれば、「アツ」と言う間に、懐かしい青春時代に戻り、話に花を咲かせ、和気あいあいと旧交を温めることができました。翌日は京都散策とゴルフでした。お互に元気をもらつた楽しい二日間でした。

（足立 勤）

平成27年10月1日から平成28年9月30日の間に、ご逝去の連絡を頂いた方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

東 花 岡	山 内	河 伊 荒 鈴 木	山 本 清 原	佐 竹 三 宅	吉 原 松 村	秋 田 佐 藤	北 村 篠 谷	森 中 森 千 石	川 村 石 川	中 川 石 井	飯 田 脇 阪	中 森 鈴 庄
憲 治 清 行	直 信 兼 輝	憲 章 隆 行	正 結 紘	二 郎 正 治	三 男 準 吉	克 彦 忠 昭	寛 晃 俊 雄	恒 雄 享 健	隆 夫 巍 嘉 宏	二 郎 昭 泰 三	二 郎 昭 宏	二 郎 啓 博
(昭 46 年 卒)	(昭 45 年 卒)	(昭 45 年 卒)	(昭 43 年 卒)	(昭 41 年 卒)	(昭 40 年 卒)	(昭 39 年 卒)	(昭 39 年 卒)	(昭 37 年 卒)	(昭 36 年 卒)	(昭 35 年 卒)	(昭 33 年 卒)	(昭 32 年 卒)
(昭 45 年 卒)	(昭 43 年 卒)	(昭 41 年 卒)	(昭 40 年 卒)	(昭 39 年 卒)	(昭 37 年 卒)	(昭 36 年 卒)	(昭 35 年 卒)	(昭 33 年 卒)	(昭 32 年 卒)	(昭 31 年 卒)	(昭 30 年 卒)	(昭 29 年 卒)

物 故 者

野 口 裕 臣	(昭 46 年 卒)
吉 岡 栄 二	(昭 57 年 卒)
石 濱 明 花	(平 21 年 卒)
〔敬称略〕	

立命化友会役員異動

〔敬称略〕

年度幹事 退任	池谷 今中	森本 正木	肱岡 北澤	片山 村澤	笠原 吉澤	山下 向	折笠 梶本	学内幹事 変更		逝去 名譽会員
								新任	任期	
九鬼	幸信 忠行	功治 聰 雅 宣	創 將 一 郎	秀樹 浩 太	翔平 拓 也	英里 伸 哲 也	有基 哲 也	鈴木 啓 二	(平 30 年 着 任)	
(昭 28 年 卒 業)	(平 20 年 着 任)	(平 28 年 着 任)								

編集後記

今年二月、初めて茨木市防災公園「岩倉公園」と隣接する立命館大学いばらきキャンパス（OIC）にて、立命化友会幹事会を開催し終了後、特別企画セミナー、懇親会を行いました。

昨年十二月鈴木啓三先生がご逝去されました。多年立命化友会の発展にご尽力いただき感謝申し上げますとともに心からご冥福をお祈り申し上げます。

八月六日、初めて南米のリオデジャネイロで第三十一回夏季オリンピック大会が開幕、平和と地球再生への願いが込められた。かつての日本の「お家芸」といわれた柔道、体操、水泳がメダルを獲得し新たな勇気と感動をもたらした。また、八月十一日は祝日「山の日」、山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝し、会員各位自然と親しみ、未来につなげていこう！（金川）

立命化友会 2015年度 事業報告

I. 諸事業

1) 2015年3月卒業生名簿作成	2015年 6月
2) 立命化友会ニュース(第4号)発行	2015年11月
3) 全会員への通信	2015年11月
4) 在校生ソフトボール大会	2015年11月
5) 卒業・修了パーティー	2016年 3月 22日
6) ゴルフ懇親会の開催 ・第35回	2015年10月 28日
・第36回	2016年 3月 23日
7) 立命化友会ハイキングの開催 ・第30回	2015年 4月 26日
・第31回	2015年10月 25日
8) 釣り天狗クラブ ・第5回	2015年 4月 5日
・第6回	2015年11月 22日
9) 温泉研究会 ・第7回幹事会	2015年 4月 23日
・臨時幹事会	2015年 9月 5日
・温泉研究会ニュース(第1号)発行	2015年 9月 5日

10) 特別企画セミナー

- ・第3回 2016年 2月 28日

II. 諸会議

1) 幹事会 ・第1回	2015年 6月 28日
・第2回	2016年 2月 28日
2) 企画運営委員会 ・第1回	2015年 6月 28日
・第2回	2016年 2月 28日
3) 立命化友会ニュース編集委員会 ・第1回	2015年 6月 21日
・第2回	2015年 9月 20日

III. 支部活動

(関東支部、東海支部、中国・四国支部) 活動なし

立命化友会 2015年度 決算

一般会計

(単位:円)		
〈収入の部〉	予算額	執行額
前年度繰越金	3,103,491	3,103,491
会 費 (学生)	4,100,000	4,100,000
寄 付 金	10,000	224,310
雑 収 入	1,000	319
合 計	7,214,491	7,428,120 ①

〈支出の部〉	予算額	執行額
事業等補助金	300,000	125,012
地域別活動推進費	250,000	0
会 議 費	150,000	30,697
印 刷 費	800,000	575,382
郵 送 費	1,600,000	624,886
人 件 費	1,000,000	811,627
事 務 局 費	300,000	120,654

雑 費	50,000	0
拠出金(連絡協議会へ)	200,000	200,000
在学生活動援助費	360,000	360,000
振込み手数料	10,000	2,700
予 備 費	2,194,491	0
合 計	7,214,491	2,850,958 ②

収入支出差引残額 (①-②) 4,577,162

応化会基金

	予算額	執行額
繰 越 金	2,298,059	2,298,059
合 計	2,298,059	2,298,059

立命化友会 2016年度 事業計画

I. 諸事業

1) 2016年3月卒業生名簿作成	2016年 6月
2) 立命化友会ニュース(第5号)発行	2016年11月
3) 全会員への通信	2016年11月
4) 在校生ソフトボール大会	2016年11月
5) 卒業・修了パーティー	2017年 3月 22日
6) ゴルフ懇親会の開催 ・第37回	2016年10月 19日
7) 立命化友会ハイキングの開催 ・第32回	2016年 4月 22日
・第33回	2016年11月 25日
8) 釣り天狗クラブ ・第7回	2016年 10月 16日
9) 温泉研究会 ・第8回幹事会	2016年 4月 23日
・温泉研究会ニュース(第2号)発行	2016年10月 1日
・第6回総会	2016年11月 13日

10) 特別企画セミナー

・第4回 2017年 2月 26日

II. 諸会議

1) 幹事会 ・第1回	2016年 6月 19日
・第2回	2017年 2月 26日
2) 企画運営委員会 ・第1回	2016年 6月 19日
・第2回	2017年 2月 26日
3) 立命化友会ニュース編集委員会 ・第1回	2016年 6月 5日
・第2回	2016年 9月 11日

III. 支部活動

(関東支部、東海支部、中国・四国支部) 未定

立命化友会 2016年度 予算

一般会計

(単位:円)

〈収入の部〉	予算額
前年度繰越金	4,577,162
会 費 (学生)	3,750,000
寄 付 金	10,000
雜 収 入	1,000
合 計	8,338,162

〈支出の部〉	予算額
総会開催費	0
事業等補助金	300,000
地域別活動推進費	250,000
会 議 費	150,000
印 刷 費	800,000
郵 送 費	1,600,000

人 件 費	1,000,000
事 務 局 費	300,000
雑 費	50,000
拠出金(連絡協議会へ)	200,000
在学活動援助費	360,000
振込み手数料	10,000
予 備 費	3,318,162
合 計	8,338,162

応化会基金

残 额	2,298,059
合 計	2,298,059